

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 青い鳥
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市古江町796番地1
記入者名 (管理者)	田島 和樹
記入日	平成 19年 8月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	職員一同、グループホーム青い鳥の理念の下、その方一人ひとりが主人公であり、その人らしくゆったりとした時間が楽しめるよう、また、利用者のご家族、地域の方々の協力をもらいながら、ケアの質の向上に取り組んでいく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		同左
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域の行事に参加したときやホームで交流会を開いた際など、これまで以上に、いつでも気軽に立ち寄っていただけるよう、利用者のご家族や地域の方々へ呼びかけていく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		同左
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に住まれる高齢者の方々を対象に介護予防教室を開催し、リハビリ体操や口腔ケア教室を通じて、予防の必要性を伝えている。		同左
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員協力のもと、自己評価を行い、これからもより質の高いグループホームでのサービスができるよう話し合いをしている。		同左
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず実施しており、サービスの状況、ホーム内であったこと、余暇活動の報告をし地域の方、ご家族の方、市役所の方を通じて、貴重なご意見をいただいております。それをもとに実践した活動もあり、外部評価の結果が出次第、関わりのある方や市役所にも報告し、意見をもらうことで、よりすばらしいグループホームの運営ができる。		同左
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、蜜に連携を図り、サービスの質の向上やよりよいグループホームの運営ができるための取り組みを行っている。		同左
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解する為の振り返りの機会として勉強会を開き、権利擁護の対象となる方が出てきた際など、速やかに対応ができるよう利用者の関係者となる方と十分話し合い、必要に応じて対応できる体制を整えている。	○	権利擁護において、勉強会をすることで、振り返る機会を持ち、対象となる方への適切な支援を行っていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議や日々の業務の中でも、気づいたことについて、職員間で話し合っており、事業所内において虐待が見過ごされないよう職員一人ひとりが注意を払っている。	○	日々の業務の中で、どんな些細なことでも虐待に繋がるケースがないか、職員間で話し合い、虐待が起らないように注意を払い、徹底していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をかけて、こちら側が対応できること、できないことについて理解していただき、疑問や不明点がないか確認している。病的なリスクの高い方においては、責任が負えない事項を誓約書に入れ、納得していただいた上で一筆いただくようにしている。	同左
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不安、意見等を元に職員間で話し合い、不安の解消や意見を基にして日々のケアに活かすようにしている。	○ 利用者からの意見、不満、苦情があった際には、かならず記録に残し、職員側で判断しかねる際には、外部者として、第三者委員、運営推進会議委員、鹿屋市役所への報告を行い、助言をいただくことで、今後、より良い運営ができるように取り組んでいく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度利用料金を支払いに来るときや遠方に住まれるご家族には電話で利用者の状態をお知らせしている。金銭管理においては、金銭出納帳を作成しており、面会に来られた際に確認をいただき、サインをもらっている。	同左
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られたときに、気軽に応えるようにしている。意見や苦情を検討しあい、今後の運営に活かしている。	同左
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、職員の意見や提案を聞き入れる機会を設けており、利用者一人一人の状態に応じたケアを実践している	○ 職員からの意見や提案を基に、利用者への必要な支援やよりよいグループホームの運営ができるように取り組んでいく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務シフト上は、ほぼ無理のない勤務になるよう工夫はしている。また、利用者の希望されるお寺の参拝や行事など、必要に応じて、勤務体制を4人体制にし、勤務調整をしている。	○ 利用者の状態や家族からの要望があった時や必要に応じて、柔軟に対応できる勤務調整を行っていく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで2名の介護職員が離職し、新たに2名の介護職員がこの1年間で入れ替わっている。現在では、なじみのある関係となり、ダメージの修復はできている。	同左

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加してもらい、研修報告書を提出を依頼し、回覧板を通じ、全職員が閲覧できるようにしている。研修の中で当グループホームの運営に役立てられそうな部分は、毎月の職員会議の中で研修参加者より、報告して、共に学んでいる。	○ 研修のお知らせや情報を基に計画を立て、職員への研修を受ける機会を確保し、段階的にスキルアップできるように、また、運営にも活かせるように取り組んでいく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者が主催する研修会に参加したり、また、交流する機会を設けて、職員の資質の向上を図っている。	○ 地域の同業者が主催する研修会や勉強会、また、お互いの事業所を訪問しあえるネットワーク作りに励み、サービスの質の向上を図っていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員全員の希望を元に勤務表を組むことで、ストレスの軽減が少しでも図れるようにし、また、日々の業務の中でも、時にはユーモアを交えた会話をする事で、明るい雰囲気で行えている。	同左
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も常に現場で職員と一緒に業務に従事し、職員との関わりの中で必要なことを伝えたり職員側の意向聞いて把握をしている。向上心を持って働けるよう、テレビや本を通じて役に立てる情報が載っていたときなど、職員に進めている。	同左
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所当初は、それまでの生活からは環境が一変するので、わからないことなどを助言して、また、不安なことは職員に伝えてもらうよう呼びかけてもらい、こちら側も本人の困っていることに対し、配慮しながら、対応し、生活環境に馴染んでもらえるよう努力している。	同左
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所にあたり、ご家族からのお話を十分に聞く機会を設けており、家族が求めている事、こちらからお聞きしたい情報など、気軽に話し合えるようにしている。	同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族やそれまで関わっていた方からの情報を元に、その方に必要な対応を行なっている。不足している情報についても、随時確認を取って対応をしている。		同左
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの雰囲気に慣れるまでは本人のペースで過ごしていただき、他の利用者に関わる際でも職員が間に入って馴染めるよう努力している。ご家族とも相談しながら、本人が安心して生活できるよう努めている。		同左
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人と職員が共に支えあえる関係作りに努め、時には、利用者から励まされたり、職員から慰めるなどし、お互いが受容しあえるように意識している。		同左
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方がかかえている悩みは、本人の思いとは違い、これまでの介護疲れやストレスにより、行き届かなかった部分もあるので、そのようなご家族がしたくてもできなかった介護をしていけるよう職員がその役目を担い、家族がしていた介護に近づけるよう家族の声をもとに行っている。		同左
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来られた際の利用の近況を報告したり、遠方にいる家族へは電話使って、本人と会話をしていただきながら、お互いが一緒に暮らしてなくてもよりよい関係が継続できるように努めている。		同左
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームへ入所となっても、なじみの関係にあった方から、積極的に利用者へ会いに来られている。		同左
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その方の人間性もあり、一人を好まれる方に対しては、無理に関わらそうとはしていない。共通の時間を過ごす際には、利用者同士の関わり合いがあるので、関係が円滑になるように働きかけている。		同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方が、こちらに遊びに来るなどの交流はないが、こちらから他の事業所に行き、交流を図ったことはあり、実際に、他所の事業所に移られた方から、こちらに戻ってきたいと言われるほどであり、利用者同士の付き合いを大事にしている。		同左
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の意向の把握に努めている。意思疎通が可能な方は、「見てくれる人がいれば家に帰りたい」と言われ、つらい。遠方から家族が帰ってきた時には、1泊でも外出だけでもいいから一緒に過ごせる時間を作っている。		同左
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、それまで関わりのあったかたからの情報を元に、これまでの生活習慣を把握し、自宅での生活に少しでも近づける努力はしている。		同左
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方の性格や有する能力を把握し、一日の過ごし方について、職員は把握できている。		同左
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意向を踏まえて、グループホームで生活するにあたり、その人らしく生活できる為の対応を職員の意見ももらいながら考え、介護計画を作成している。		同左
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しをしており、期間以外においても、日々の生活の中で、新たな課題やニーズがずれていないか見直しをしている。		同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを作成しており、その人の一日の食事摂取量や排便確認、バイタルチェック、服薬の有無、ケア記録を記載し、情報の共有に努めており、記録をもとに介護計画の見直しやモニタリングをしている。		同左
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診において、家族で対応が困難な際には、送迎を行い、一緒に通院して、主治医に近況報告をしている。		同左
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、警察官、とは、交流の機会を設けており、特に、グループホームでの行事や地域での行事がある際などでは、相談を受けてもらい、必要に応じた協力をいただいている。	○	今後も利用者の必要性に応じて、地域の民生委員、ボランティア、警察官、消防などの協力をいただきながら、グループホームの運営に役立てていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	肩や首の痛みなど体の痛みがある方に対し、鍼灸治療が鹿屋市より高齢者用の負担減額用チケットがあるので、そちらをすすめ、鍼灸をしたところ、一人の方は、とても生きいきされている。主に他の事業所や家族から、他のサービスの情報をいただく機会があり、必要に応じて、利用者にもこのようなサービスが受けられる旨を伝えている。		同左
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	6月に運営推進会議をした際、初めて地域包括支援センターの職員の方が来られ、こちらのグループホームのことをより知ってもらえる機会があった。また、地域において、自宅で生活するのに困難な方の情報をいただけるようになり、今後も協力し合えるように努めていく。		同左
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その方の一人ひとりの病状に合わせて、必要な治療や薬を処方していただける専門医療機関を紹介し、受診することで、改善が見られたこともあった。ほとんどの方が家族では病院受診が困難な方が多いので、事業所側が柔軟に対応している。		同左

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>脳神経外科が必要な方、泌尿器受診が必要な方、眼科受診が必要な方、循環器内科受診が必要な方など、その方の必要性に応じて、専門医による診察を受けるようにしており、相談できる医療機関が複数ある。</p>	同左
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>当グループホームにおいて看護師は勤務していない。ただ、入居者のかかりつけ医の看護師とは病院受診時において、状況報告を行い、健康上の指導をいただいている。</p>	同左
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した際には、こちらで行っていた介護や本人の行動などを要約した記録を作成し、入院先の医療機関担当者へ情報提供をしている。入院した方の回復具合を面会を通じて確認し、担当医や、看護師、理学療法士に退院に向けての期間や状態をお聞きし、退院可能であれば、家族とも情報交換を行いながら本人を取り巻く周りの方々との連携に務めている。</p>	同左
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した際でも、たとえば病院を退院して受け入れ先がなく、特養へ入所が決まるまでの条件として利用された方もいれば、退院しても当グループホームには看護師がいない為、医療重要度が高い方においては、その方に必要な医療が受けられる業者と連携を図り、ご家族の了承の下対応している。</p>	同左
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>今後、グループホームで「できること、できないこと」をかかりつけ医と相談し、出来る事は支援していく。</p>	同左
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入所される以前に、ご家族の方や居宅介護支援事業所のケアマネージャーの情報をもとに自宅で過ごしていた生活スタイルを崩さないようできるだけ本人のペースで過ごしていたが、本人が困っている際には、対応し、ダメージの防止を図りつつ、ゆっくり時間をかけながら本人とかわかっている。</p>	同左

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の尊厳やプライドを傷つけないよう、言葉かけに配慮している。記録や個人情報に関しても守秘義務を守っている。	同左
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事に対する要望や外出に関する要望を気軽に伝えられるようこちらから働きかけている。本人の希望を叶えられるよう必要な助言をしながら、自己決定できるよう支援している。	同左
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、「利用者一人ひとりが主人公」「ゆったりとした時間を楽しむ」の理念のもと、利用者一人一人のペースで一日を過ごしていただけるよう、本人の希望に沿った支援をしている。	○ その人らしい暮らしができるように、本人希望を叶えていけるように利用者の都合に合わせた支援を行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自分で身だしなみを整えられる方はご自分でされている。出来ない方は、本人と一緒に洋服を選び身だしなみを整えている。理容に関しては、不定期ではあるが美容師の方に来ていただき本人が望むように散髪をしていただいている。また、ご家族が本人の通っていた理容店へお連れし、身だしなみを整えられる方もいる。	同左
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの簡単な下ごしらえを入居者に働きかけ、一緒に行っている。利用者と同じ食事をいただき、下膳は下肢筋力の安定している方はしていただいております。片付けも一緒に出来る方はしていただいております。	同左
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族の面会を通じて、利用者へのお菓子類だったり、飲み物類など管理できる方にはそのままお渡しし、出来ない方に対してはこちら側で管理し、必要に応じてお渡ししている。	同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご自分からはトイレの意思表示が難しい方においては、その方の排泄パターンを把握しており、行動があった際に、こちらからトイレの声掛けを働きかけ、誘導するようにしている。おむつを使用している方でも排泄の希望があった際には、トイレ誘導をし、トイレで排泄できるよう援助している。		同左
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後から入浴を実施し利用していることで、利用者も午後からの入浴は、気持ちが落ち着くとおっしゃっていただいている。		同左
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中での離床を行い、夜間ゆっくり眠れるように支援しているが、病院受診や外出しホームに戻ってきたときや体調がすぐれないときなどでは、無理には離床はせず、自室で気持ちよく休んでいただいている。		同左
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自宅で過ごしていた際に本人がしていたこと(お寺参りや草取り)や畑仕事など利用者一人一人の生活歴を把握した上で、利用者が楽しめることや気晴らしができる活動を取り入れている。		同左
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がこちら側でお金の管理をしている。お金を使える機会を増やして行き、買い物を楽しめるように支援している。		同左
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	長時間、外を歩くと腰が痛かったり、足が痛くなったりされるため、ホーム近辺のみの散歩がほとんどである。本人のなじみの店にはいけていないが、外出する機会は設けており、公園にお弁当を持っていったり、季節に応じて、いちご狩りやバラ園見学などもしており、時には外食もしている。		同左
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月の行事を計画する上で、利用者からの希望を元に、普段いけない場所への外出を計画している。不定期ではあるものの家の状態において不安のある方へは、自宅までお連れしたり、また、遠方に住むご家族が帰ってきたときなどでは、ご家族の協力の元自宅に連れ行ってくださっている。		同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃、面会に来れない利用者の家族へは、利用者へ電話をされてみないか促してみたり、また、こちらから電話をかけた際に、本人ともお話をされてみないか家族の方へお願いし、短い時間ではあるもの電話での会話を楽しまれている。		同左
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間帯では、面会をされると不安になられる利用者もいるので、お昼間に面会には来ていただくようにしている。また、面会に来られたご家族に対しても利用者本人の最近の状況などを報告し、気軽にきていただけるようにしている。		同左
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は、身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束における勉強会を行い、振り返る機会を設けることで、現状に満足することなく、全職員が意識して、身体拘束をしないケアに取り組んでいく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間においては、職員が独りしかいないこともあり、玄関には鍵をしているが、日中では、玄関には鍵をしていない。玄関にはセンサーがあり、無断で外出しようとした際には、すぐに職員が対応できるようになっている。		同左
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中では、フロアにいる職員が回りにいる利用者や居室にいる利用者を見守っている。夜間では、居室を見まわりできるよう廊下にて待機し、随時巡回をしながら、利用者の安全に配慮している。		同左
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて、管理が必要なもの、必要でないものを分別して、管理が必要なものにおいては、事故を防ぐ為、こちらで管理している。		同左
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒などにより、事故が起きた際には、事故報告書を作成し、ご家族や市役所へ報告し、再度事故が起こらないよう職員会議で確認をしている。		同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に毎月の職員会議で、急変や事故発生時に備え、マニュアルを基に行動できるよう取り組んでいる。	○	定期的に利用者の急変時や事故発生時におけるマニュアルを職員全員で見直して行き、素早い対応ができるよう取り組んでいく。また、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていくために、消防署で毎月開かれる講習会に、職員が交代で参加し、訓練を実施していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回は、災害が起きた際を想定して、シミュレーションではあるが、訓練をしている。また、消防署の方にも来ていただき、防災訓練の評価をいただき、必要な助言や取り組み方について指導をいただいている。	○	今後も、昼夜問わず、災害対策として、利用者を避難できるための訓練や必要に応じて、マニュアルを見直していき、地域の方々の協力をもらいながら、職員全員が対応できるよう取り組んでいく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	今後考えられるリスクが高い方においては、こちら側が責任が持てること持てない事を家族と話し合いの場を持ち、転倒や病状の急変が起こらないよう対応していくが、それでも、事故などが起きた際には、理解をいただけるよう誓約書を作成し、ご理解の下、利用者の支援をしている。		同左
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており、異変の早期発見をすると共に、病院受診を行うなど柔軟な対応はしている。		同左
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の個人ファイルを作成しており、薬の内容に変更があれば記録に残して、確認してもらっている。		同左
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳が飲める方へは朝食時にお出ししたり、お菓子にはイモ類を使用したりして、自然便の排出ができるように支援している。また、便秘がちな方において、ガスの排出の確認ができたりしたときは、速やかにトイレ誘導し、排便を促す為の腹部マッサージや肛門部の刺激をし、排便の排出を促している。		同左
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご自分で入ればの管理や歯磨きが出来ない方においては、職員側で、残存歯のブラッシングをしたり、入れ歯の洗浄や管理も行っている。		同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせ、食事を調整している。また、栄養バランスを考え、偏りのない献立にしている。水分をたくさんとってもいい方や水分制限のある方もいるので、一人一人の状態に合わせて水分もすすめている。	○	栄養バランスにおいて、栄養士や保健師など専門家にみていただくことで、より偏りのない献立を考え、取り組んでいく。また、一人ひとりこれまでの生活習慣から好みの趣向も違うことから、よりおいしく食べていただく工夫も取り組んでいく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防におけるマニュアルを作成しており、マニュアルを元に利用者、職員、外部から来られる方の感染症予防・対策に備えている。		同左
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	時間のある時や利用者が休んでいる時間帯を利用して冷蔵庫の整理や掃除をしている。食材は施設長が毎日購入しているが、必要に応じて、不足している材料が合ったときは職員が随時買い物へ行っている。		同左
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内と玄関の出先には木作りの腰掛を用意しており、外の空気を座りながら楽しめたり、また、立ったまま靴を履いたり脱いだりする方には腰掛があることで安心できるようになっている。		同左
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けやソファ類の配置など、職員のアイデアを下に、利用者にとって過ごしやすい環境を作ったり、また、共用スペースでは、利用者全員が気兼ねなく過ごせるようソファやテーブル、ゴザの配置をしている。		同左
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下には、ソファを配置しており、仲の良い利用者同士語らいを楽しまれたり、廊下にあるソファでは歩きつかれた方は、一休みをされたりしている		同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方が自宅で使われていたタンスや物入れを持ってこられている。また、洋服入れなど入所されてから、利用者が希望され、購入した洋服入れなどもある。個人の所有物として写真の入ったアルバムやお手紙などはご自分で管理されている。		同左
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節に応じて、温度調節を行い、冷暖房や夏場においては、日射しの強い部屋の窓には日射しよけを外から立てかけ、空調の配慮を行っている。また、必要に応じて窓を開けるなりして換気の調節も行っている。		同左
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、姿勢保持が困難な方には介護用の肘掛け椅子を購入したり、浴槽には滑り止めマットを使用することで立ち上がりの不安の軽減を図ったり、転倒しにくい環境整備作りをし、安心して過ごせるよう、また、本人の使える能力を活かせるよう環境づくりに励んでいる。		同左
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	よくトイレの場所がわからない利用者の方おられ、目印として青い工作用の紙で作ったものを目印とし、トイレの分からない方へ認識できるようにしたり、日常の中で利用者が混乱しないよう不安材料を取り除けるようにしている。		同左
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの庭には、畑や花壇があり、また、ベランダには木作りのテーブルやベンチシートがあり、そこで、作業を楽しんだり、季節の野菜や花を見たりして楽しまれている。また、障がい者用のスロープもありそこを利用して歩行訓練をされる方もいらっしゃる。		同左

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①当グループホームの前庭には、畑があり、季節の野菜を植え、収穫したての野菜を食材に利用しています。又、鹿屋市唯一の古江漁港も近い為、鮮度抜群の地元で取れるかんばちや錦江湾内でしかとれないエビ、時には珍しいお魚も仕入れることがあり、毎日ではないものの食卓に登場する「お刺身」や「焼き魚」、「お魚の煮物」、「かき揚げ」、「自家製のさつまあげ」は、自慢の一品であり、利用者の皆様方にも喜ばれて食されています。

②戦時中や戦後の混乱期に青春時代のなかった皆様方に短時間でも利用者と職員と一緒に取り組める季節に応じた行事や趣味活動を通じ、地域の方々の協力も得ながら1日1にちを楽しんでいただけるように、また、その方にとっての生き甲斐となるような経験や体験ができるように取り組んでまいります。